

## 実践校に関する事項

学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立日高高等学校 中津分校	村岡 宏起
学校所在地		
〒644 - 1121 和歌山県日高郡日高川町西原357番地 Tel 0738(54)0226 Fax 0738(54)0879		
担当者名		役職名・担当教科
西村 俊治		1年担任

## 〔学校の概要〕

昭和24(1949)年和歌山県立日高高等学校 船着分校として定時制課程がスタートし、昭和31(1956)年全日制課程に変更し、名称も中津分校に。平成9(1997)年野球部が春の甲子園選抜大会に出場。全国初の分校出場を果たした。現在、全日制普通科に62名が在籍し、その9割以上が野球部に在籍している。県外出身者も多数在籍し、野球部全員が寮での共同生活を行っている。  
『自主至誠』を校訓とし、誠実な心を有し、自ら進んで物事を考え、実行していく人物の育成を目指している。

## 研究実践に関する事項

対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年 1年生 23名	職員 2名	本校、本校周辺、熊野参詣道、本宮大社
実践研究テーマ		
地域の歴史・文化を学び、その魅力や課題の発見と、課題に取り組む力の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な探究の時間	地域学習	

## 〔キーワード〕

地域の魅力 地域の遺産とは 世界の遺産とは 熊野参詣道 保全活動 地域振興

## 〔単元目標〕

- ・地域が持つ歴史的、文化的、自然的な魅力等に対して理解を深める。
- ・世界遺産講座や現地学習を通じて、その価値を理解するとともに、その課題についての考察をする。
- ・ものごとを様々な角度から捉える視点を養う。

## 〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕

全体 20時間 (「地域学習 / 世界遺産の価値」 10時間 )

## 〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕

和歌山県世界遺産センター・世界遺産マスター … 次世代育成事業

日高川交流センター … 日高川町の文化に対する学習

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	地域観察（日高川町中津周辺）	自分たちの学校の周辺にはどのような自然があり、集落があるのか、また、それが人々の暮らしにどう関わっているのかに注目させる。	（学びに向かう力、知識及び技能、判断力） 観察 積極的な態度 コミュニケーション
2	世界遺産学習	ワークシートや ICT を使用し、世界遺産に関する情報を調べるとともに、ユネスコが世界遺産を認定する基本的な基準や意義を学ぶ。	（学びに向かう力、知識及び技能、表現力） 観察 積極的な活動 ワークシート
3	世界遺産講座	世界遺産センターの職員により、世界遺産や「紀伊山地の霊場と参詣道」について基本的な知識を学ぶ。	（学びに向かう力、知識及び技能、思考力） 観察 ワークシート
4	現地活動	三軒茶屋跡～熊野本宮大社～大斎原「道普請」から文化や自然を継承する喜びを知り、自分たちにできることは何かを考える。	（学びに向かう力、知識及び技能、人間性、表現力、思考力、行動力） 観察 自己評価
5	ふりかえり	学習したことを振り返り、まとめる。アンケートにより、どのくらい学習が深まったのか確認する。	（学びに向かう力、思考力、表現力） 表現方法の工夫 自己評価

〔単元学習の成果と課題〕

事前学習から講義や現地学習を組み合わせながら、世界遺産を柱とした地域学習に結びつけ、我々が住む地域の価値や魅力をどうやって見つけ、守っていくかを学ぶことができた。  
生徒は県外出身者や地元地域外出身者が多く、また野球一筋になりがちな学校生活の中で、将来、社会人として身につけてほしい、多様な角度からの考察力や、自身の考えを表現する力の育成に成果を出すことができた。  
しかし、その中身の深さや精度はまだまだ伸びしろがあり、互いに感じたことを表現し合いながら、それぞれの関わり方についてより模索していけるような、グループワークや発表の場を築いていきたい。

〔世界遺産学習の効果〕

熊野古道は巡礼の道というだけでなく、自然とそこに暮らす人々の生活との融合が、さらなる価値を生み出し、歴史を積み重ねているということを知ることによって、人間の立場からのみならず、そこに存在する事物の立場から、ものごとを捉える視点を学ぶことにつながった。  
また、ふるさとに対して、自分自身に何ができるかについて改めて見直すことができる貴重な機会となった。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

今回初めて和歌山県世界遺産センターの「次世代育成事業」に参加した。準備されているプログラムの内容に対して、生徒の興味や関心がどのくらい引き出せるか不安な面もあったが、期待以上の刺激があったように感じられる。  
生徒にとって現地での学習や体験を通して、身近な地域への関心を高め、積極的に取り組む姿勢を導き出すので、今回の取り組みを踏まえ、事前学習をさらに工夫し、プログラムが持つ魅力と有効性が生徒の成長により活かされるように改善していきたい。

～参加生徒の感想～

「この現地学習では道普請の保全活動をさせていただき、自分の力が役立ったのではと思うと嬉しく感じました。神社の参拝の仕方でも学ぶこともできました。いろいろな体験ができてとても楽しかったです。一番印象に残っているのは、世界一大きな鳥居の大斎原です。話には聞いていましたが、実際に目の当たりにすると、想像以上に大きく、その迫力と存在感に驚きました。この先もたくさんの方が保全活動に参加し、熊野の美しい景観や文化がいつまでも残っていけばと思います。」



「初めて保全活動を行いました。自分たちのふるさとにある熊野の世界遺産をいろいろな人たちが力を出し、守ってくださっているし、高齢化が進む社会では土運びや土ならしも我々若者が積極的にに関わり、進めていくべきだと思います。このような活動にもっと参加したいし、友人や知り合いにも呼びかけていこうと思います。」



「和歌山には守り続けていかななくてはいけないものがあるということを知りました。もっと学んで、“熊野”の魅力を知らない人に伝えていきたいと思っています。」



「道普請の準備や詳しい解説をありがとうございました。歴史を知り、内容を知り、伝え守ってきた人々のことを知り、とても大切にされた素晴らしい世界遺産なんだと感じました。熊野古道や本宮大社、大斎原を実際に歩いて、昔の人の苦労や遠方からわざわざ熊野まで来られる理由が少し分かったような気がします。大斎原の身近に感じることができました。」

鳥居は思っていたよりも大きくてビックリしました。世界遺産を身近に感じることができました。」



「世界遺産についてすごく丁寧に教えてくださりとても勉強になりました。道普請では何度も土袋を持って往復して疲れましたが、とても良い経験になりました。熊野古道が今まで維持されているのは、人々の信仰が厚く、また、そこに住む人たちにとっても重要な存在だったからだと思います。おそらくこれからの日本人にとっても、「神道」「仏教」「修験道」の融合の地として、重要な場所であり、宗教上の紛争がなくなっ

ていない世界の人たちにとっても、未来につながる重要な地になるのではと思います。そんな“熊野”を僕たちが引き継ぎ、守っていきたくて思いました。」

